

第 1 回 日本物流大賞『事業者間連携賞』の共同受賞について

豊島株式会社(本社:名古屋市中区、代表取締役社長:豊島晋一)、MN インターファッション株式会社、株式会社ヤギ及び関光ロジ NEXT 株式会社の 4 社は、一般社団法人日本物流団体連合会が主催する「第 1 回日本物流大賞」において、東京九州フェリー株式会社とともに『事業者間連携賞』を受賞いたしました。

本取り組みは、アパレルや雑貨といった商材を対象に、トラック輸送に依存していた従来の物流体制を見直し、海運モーダルシフトを推進するものです。製品分野では互いに競合関係にある 3 商社が「物流は協調する領域」と位置づけ、中国から輸入される関東向け貨物を下関港に集約し、首都圏の中継地点までの幹線輸送で「共同輸送」を実施しております。

2025 年 3 月のアライアンス結成から 2026 年 2 月までの 1 年間、幹線輸送の大部分を関光ロジ NEXT グループの東京九州フェリー(新門司港→横須賀港)が担う複合一貫輸送にて展開しました。このフェリーを利用したトレーラー輸送の実績により、従来の 10 トントラックによる長距離陸送と比較して、CO₂排出量を 71%削減(削減量 149.5t-CO₂)し、トラックドライバーの運転時間を 85.7%削減することに成功しました。



■ 受賞の評価ポイント

今回の受賞に際し、以下の点が「事業者間連携のモデルケース」として高く評価されました。

- 競合関係にある3社が「物流は協調領域」と捉え、事業者間連携による共同輸送を実現した点。
- 下関港のコンパクトな特性を活かして、貨物集約によって安定したトレーラー単位の輸送を成立させるための実務的な工夫がなされた点。
- 当日通関を行った貨物が近接する新門司港からのフェリー乗船を可能とした運用設計により、リードタイムを変えることなく海上モーダルシフトの実効性を大きく高め、結果としてCO₂排出量や運転時間の大幅削減につながった点。

■ 今後の展望

本取り組みを通じた幹線における「共同輸送」の成功は、持続可能な物流構築に向けた重要な第一歩と位置付けております。今後は、中継地点の経由を省き、最終納品先へダイレクトにお届けする「共同配送」という、より高度な効率化を目指しております。

そのために、賛同いただける荷主様へ本アライアンスへの参画を呼びかけ、共同輸送の輪を拡大し、貨物量の安定を図るとともに、納品先である小売企業様と連携を深め、中継レスの配送を実現することで、よりシームレスな環境負荷低減を目指した物流体制を追求してまいります。

※1 経済産業省・国土交通省による「物流分野のCO₂排出量に関する算定方法ガイドライン」の計算方法に基づく従来トンキロで単位あたりのCO₂排出量:陸送部分 216(g-CO₂/t-km)、海上部分 43(g-CO₂/t-km) として計算。